

第34回「大津市公共施設マネジメント推進委員会」会議結果 (概要)

1 開催日時 令和8年8月26日(水) 10時00分～11時45分

2 開催場所 大津市役所 別館2階 321会議室

3 出席者 11人 委員6人(全委員)

事務局5人

委員：宗田委員長、細井副委員長、小林委員
辻委員、成田委員、原田委員

事務局：別所行政改革推進課長、長田行政改革推進課長補佐
齊藤行政改革推進課係長、高田行政改革推進課主任
総務省アドバイザー 三木 氏

4 次第

(1) 開会

(2) 委員長・副委員長選出

(3) 議題

・大津市公共施設総合管理計画改訂について

(4) 閉会

5 配布資料

・ 次第

- ・ 資料1 大津市公共施設総合管理計画の改訂について
- ・ 資料2 大津市公共施設総合管理計画 令和4年7月改訂版
- ・ 資料3 大津市公共施設総合管理計画 概要版
- ・ 資料4 大津市公共施設白書 本編

6 傍聴者 0人

○ 開会

○ 委員長・副委員長選出

○ 委員会の公開について

全会一致で委員会を公開とした。

○ 議事録（要旨）

▼委員

改訂の方向性としては特に異論ございません。重要になってくるのが、5ページ目の改訂方針案のところかと思います。コストシミュレーションは、5年前の改訂時と比較して、物価高騰を加味する必要があり、大きく金額が変わってきそうだと思います。そのあたりを踏まえて精緻なコストシミュレーションをされた上で、具体的な内容を決めていくことが重要だと思います。関連して9ページ目ですが、コストシミュレーションの条件として財源割合の設定が試算結果に大きく影響するものと考えられます。この3条件で計算されるということで理解したらよろしいのでしょうか。たとえば、起債を充てたとき、一般単独事業では起債に対する地方交付税の措置は含まれない想定かといった点も含めて、ご確認させていただけますか。

▼事務局

お見込みのとおりです。

▼委員

もちろん正確さを考えていくと計算や条件設定が複雑化しますので、この3条件をベースに試算する趣旨は理解しますが、財源内訳による影響は大きく、実際の負担額には相当な乖離が生じる可能性があるのではないかなと思います。交付税措置があるようなものに対しては、その影響額や取扱いをどのようにお考えなのでしょうか。

▼事務局

補助金、起債に対する交付税につきましては、制度の変更で大きく変わってくる要素がありますので、コストシミュレーションをするに当たっては、なるべく影響を受けないように試算することが適当ではないかという考えでこのようにさせていただきたいというところです。公共施設の集約等に関しては、公共施設等適正管理推進事業債等があり、交付税措置もあるため、実際はそういったものを活用しながら、というところにはなりますが、時限的な措置でもあるため、このような試算が適当ではと考えています。

▼委員

理解しました、私もそれでいいと思います。

▼委員

今ご指摘いただいた点に関して、私からも一つ申します。公共施設のコストシミュレーションに関しては、8ページに挙げていただいている新しい考え方の算定方式への議論があります。私は国土交通大学で、公共建築研修の講師を務め、最近もこの講義をしています。建築物価の高騰と工期の遅れが非常に深刻な問題です。全国的に、もちろん民間でもですが、公共建築でも、今までのシミュレーションでは到底追いついていない現状があります。

同じく、国交省大臣官房官庁営繕部の仕事で公共施設のプロポーザル方式による業者選定方式を決める委員として、その仕組みを作る仕事をし、今でもプロポーザル方式の審査員を各地で務めています。先日、このコストシミュレーションの精度が業者選定の重要なポイントとして上がった初めての事例を経験しました。今までは地元の文化を生かすとか、市民目線で提案していることが選定の視点でした。もっと昔は、入札価格が安い業者を選定するやり方でしたから、価格だけでなく、より質の高い設計業者を選び、優れた公共建築を建てるというプロポーザル方式にしたのです。その後、環境配慮等も含むいろいろな選定ポイントがあげられました。それが、コストシミュレーションが優れているからという理由で初めて選定しました。建築ではそれほどに深刻な問題になっています。これからの大津市の公共施設の議論でも、このコストシミュレーションの精度は、随分効いてくるだろうと感じています。この点をご指摘いただいたことはとても重要で、今このコストシミュレーションの議論で、公共施設の在り方が根本的に変わるという時期だと思っています。

▼委員

基本的な話で恐縮なのですが、今回、公共施設総合管理計画の改訂ということなのですが、前回改訂時のものから、内容を目次も含めて大幅に変えるということなののでしょうか。それとも、全体構成はこのままで内容を変えるだけというお考えなののでしょうか。

▼事務局

今回の改訂では、マネジメント方針部分を改訂するか否かというところが、まず一番大きなポイントとなると考えておりまして、マネジメント方針に関しましては、大津市では市議会の議決が必要になる議決事件ということになっています。この部分の改訂を行うということになると、必然的に議案として市議会に提出させていただくことになるのですが、前回改訂の際に現計画の中で盛り込ませていただいております、これだけ社会情勢が変わっている中ですが、5年のスパンで頻繁に変えるものではなく、基本的には10年ごとの大きなスパンで、大きな改訂の際には見直すものという形で現在の計画では考えさせていただいているところです。ですので、基本的には今回はマネジメント方針そのものについては改訂せず、マネジメント方針に基づくそれぞれの取組方針に関しては、この間のいろいろな社会情勢の変化や、本市がこの5年間取り組んできた取組の成果、国の策定指針も踏まえて新たな視点を設けなければならないもの等を踏まえながら改訂していくというような形で考えているところです。

その他の改訂としては、本市の公共施設のマネジメントに関する計画的なものとして、この総合管理計画と、大津市公共施設白書というものが残っています。公共施設白書に関しては、平成30年に前回のブラッシュアップをしており、その後に総合管理計画の改訂を行っているのですが、現在の総合管理計画と公共施設白書では、内容的に重複する部分や、齟齬があります。あくまで公共施設白書については、その時点での本市の公共施設を取り巻く状況を表したものであるという位置付けで考えていますので、重複する内容や齟齬のある部分に関しては落とした上で、総合管理計画への反映が必要な公共施設白書の情報に関しては総合管理計画に移していくというような形で今回の改訂を進めることを考えています。公共施設白書の新たなデータ類が入ってくるということを踏まえると、目次部分も変わってくるかと思えますし、一方で、一部、今の総合管理計画から削除しようと考えていることもありますので、その辺りを踏まえても一部変更をしながら改訂を進めていく形になろうかと考えているところです。

▼委員

目次も含めて変えるということですね。

▼事務局

はい。一部、施設分類ごとの管理等に関する基本的な方針に関しては、個別施設計画の内容を一部抜粋しているのですが、この部分に関しては、個別施設計画は適宜変更が生じる可能性もありますので、総合管理計画の中で抜粋をするのではなく、ホームページ等でご覧をいただくような形のほうがよりふさわしいのではないかと考えております。このことから目次部分に一定の変更は生じてくると理解しています。

▼委員

構成を大幅に変えるのか、今、おっしゃったような内容で少し変えるのかで議論が違ってくる感じがしたので、質問させていただきました。

▼委員

必要に応じて大幅な改正もあるかもしれないとは思いますが、個別の計画の是正から積み上げていくという考え方で見れば良いのだろーと思います。最初から大きく変えるという時期にはない、それは10年おきだと。しかし、5年おきの改正があるのは、その個別の必要な改正を積み上げていくことで何か大きな変化がないかどうかということを確認することもありますので、作り直すということではないのが5年目にはあるので、この点検をすることから始めたいということだと思いますよ。

▼事務局

はい。

▼委員

幾つか、公共施設の機能では、例えば災害激甚化の現状の状況にあって、大雨災害とか地震が必然的に起こりうるわけです。その場合、公共施設の防災機能、特に避難所としての高い居住性が必要になってきています。たとえば12ページにあります、長寿命化のリストの下の方にある木戸市民センター、真野北市民センター、仰木の里市民センターは、おそらく、防災機能、防災拠点としての避難所ということもあるのだろーと思うのですが、幸い空調設備の更新がここで行われている。今年、一番暑い8月の熊本地震でこの空調の有無が大問題となりました。

また、その上ですが、大津聖苑のエアハンドリングユニットの更新、大津聖苑で空調設備の更新があるわけです。これが人口動向から見ると2040年に迎える多死社会、全国で年間168万人が亡くなります。火葬場のキャパシティ問題があります。火葬場も都市計画施設ですから、常に多くの自治体で火葬場が足りている、足りていないということが議論されています。実際、他市では、火葬場のキャパシティが足りなくて、何日も待っていただくことが起きていますから、それを考えると大津市では、この個別施設の適正化の中で、長寿命化によって多死社会に対応する、2040年までの適正なキャパシティが確保されているという理解をしてこのご判断をされたと思います。こういうことを、それぞれの専門の立場から1つ1つ点検していただくことが大きいと思います。他にもいろいろ公共施設マネジメントでは出てくる議論があるのだろーと思います。

▼事務局

まさに熊本の地震を踏まえて、避難所の関係で公共施設の防災機能を高めるという点がクローズアップされているかと思うのですが、資料13ページの中学校体育館空調設備設置事業がDB方式でそのような空調整備をしましたというところを掲げています。

▼委員

まさにそれですね。

▼事務局

学校体育館が避難所になるということを前提に、単にその施設の躯体や設備を現状のまま長寿命化させるというだけではなく、機能そのものを時代に合わせてふさわしい工事を含めて検討するという、そのような観点から現在のこの灼熱の環境のご時世に合わせて、機能をアップデートするという取組をしているところです。

もう1点、斎場、火葬場のことについてもお触れいただいたと思うのですが、本市は現在、志賀聖苑と大津聖苑で、火葬場を2か所体制で運営しておりますが、今後の多死社会の一方で、その先の人口減少の時代を踏まえて、この2か所体制がどうあるべきなのかということも、検討が必要であると認識しております。個別施設計画の中ではまだ結論は出ていませんが、1か所体制での運営の不安定さ、設備等の更新、建物の更新という観点、加えて今の社会での視点で広域化という観点ももちろんありますので、本市だけで斎場を持つのがふさわしいのかどうか、近隣の自治体と共同で設置するようなこと、そのような視点も大事であるということも念頭に置いて、個別施設計画の中ではそういったことも視野に入れながら考えていく必要があるというようなところは認識しているところです。

▼委員

他市の火葬場の場合は、人口減少があるので大規模化をせずに効率化を図ることによって凌ぐということを決めて、近隣都市との連携も非常に重要なということを議論していますので、まさにこれ広域で取り組むべき施設の典型的な1つですね。

実際、周辺の都市と連携している自治体も見られます。

▼委員

3点ほどお聞きしたいと思うのですが、まず初めに5ページの改訂方針案の取組方針ですが、国の指針改訂で示された新たな視点を踏まえてあるのですが、ちょっと縦割りの話になっていますよね。国に引っ張られてというような感じがするので、大津市さんの計画を前に持ってきて、その上で国の指針で示されたということで、順番を入れ替えるのが良いのではないかと感じました。1番目に、国の指針との整合があるので、そういう意味でマネジメント方針としては市の主体性を保ちつつというようなことがあってもいいのかなという気がします。

2点目はコストシミュレーションですが、先ほども議論でありましたが、これはインフレを考えたらかなり難しいということと、単純な比較が果たしてできるのかというのは感じますね。今現在の仕様のもとでのいわゆる改修ということと建替を考えるとと思いますが、ニーズが変わってくるので、そうすると捨わないといけないいろいろな問題が出てくるので、そういったことを考えると単純なシミュレーションで果たしていいのかというのがありますね。もう1点、シミュレーションするのであれば、たとえばこの単純更新と長寿命化と、もう1つは周辺施設の複合化を合わせてどうなるか、といったことも併せてされたら意味があるのかなという気がします。あくまでもコストシミュレーションは現在価格のコストなので、それがインフレになって20年後、30年後にそれが適正かっていうのはかなり難しいなという気がします。

3点目ですけど、この数値目標を設定しないというところ、私は設定しなくていいと思うのですが、では具体的にベンチマークを何とするのかということが大事で、ベンチマークのないところに責任感が出てこないと思うのですよね。7ページの令和4年度と今回の見込みで約539㎡減っているというのは、PDCAサイクルからいうと、このやり方は少しまずいなと、そういう気がしています。

この3点でどうお考えかということをお聞きしたいと思います。

▼事務局

1点目について、国の策定指針の中で今回、指針の中で必ず記載する必要がある事項というのが追加をされていますので、そちらに関しては今回の改訂で対応をする必要があるということから、まずはこの点を先頭で書いております。委員がおっしゃるように、まずは本市としての取組がどうであったのかという大津市の改訂に対するその考え方、必要性、成果の検証を踏まえてというところが大事なのではないかとのご趣旨のご指摘というふうに理解しましたが、まさにその点が大事だと認識をしているところですので、今後、この考え方に沿って改訂作業を進めさせていただくに当たっては、まずはその部分を念頭に取組を進めて、改訂作業を進めたいと考えているところです。

▼委員

国の指針を入れるというのは、入れられたほうがいいと思いますけれど、あくまで市が主体だという、書きぶりの問題ですけど、そのような感じの内容を入れられても良いのかなと思います。

▼事務局

国が示しているからどうこうということではなくて、本市として現状どういう課題があって、どのようにしていく必要があるのかというところが最も大事なところですので、その点については改めてそのような方針、趣旨、考え方で取組をさせていただきたいと考えています。

▼委員

15、6年ぐらい前だと思うのですが、大津市では国に先駆けて独自の公共施設マネジメントに取り組んでいましたが、なかなか大津市が想定したように進まなかった経緯があります。その後、改めて議論を進めるためにこの推進委員会が立ち上がり、市議会と相談しながら進めてきました。そのときに拠りどころとして、大津市独自の考えを大事にしながらも、国の指針ではどこまで言っているのか、最低限その部分は確保した上でプラスアルファをつけるというようなやり方をされてきているというように思います。最初は大津市の想定で計画したのが、市民の皆さんとの議論で再考し、国の指針を少し頼りにしつつ、しかし大津市独自の事情と議論を十分踏まえながら、当然パブリックコメントをし、市民の厳しく詳しい指摘を受けながら、また、バランスを取りながら進めています。決して国に引っ張られている感じはせず、国が言うから重い腰を上げたという状況とは正反対の進め方かなという認識を、私は持っています。

▼委員

結局は市の主体性というのは、いわゆる市長さん初め幹部さんだけの話じゃなくて、市民を巻き込んだ意味においての主体性というように感じているので、だから書かれたほうがいいかなという、そのような趣旨で申し上げました。

▼事務局

2点目はコストシミュレーションに関してのご指摘であったと思うのですが、今回の改訂の視点の1つに脱炭素化を掲げさせていただいているところではあるのですが、これは1つのトピックスではありますが、コストシミュレーションの中で、脱炭素化の部分の対応をどうするのか、特に更新費用ではなく、改修、修繕の部分に関して、その部分の対応をどうするのかというところを加味することとなりますと、シミュレーションとしては煩雑な部分が出てくるという理解をしております。プラスアルファの部分に関しては、コストシミュレーションの中では難しい部分があると考えているところです。

当然、ニーズの変化、総量の適正化、抑制や、立地、配置の最適化というところで、今の計画にも掲げていますが、施設の集約化、複合化というような視点というのは当然現時点でも持っているところではありますし、これに関しては今後の改訂においても、当然継続して取り組む内容になるかとは思いますが、コストシミュレーションの中で、どれとどれを複合化して、できることであれば面積を削減していくというようなところを見込むのは、シミュレーション上は難しい部分があると理解をしています。

委員がおっしゃるように、今後ニーズ変化によって、施設が廃止をされていくようなもの、廃止を予定すべきものに関しても、単純に更新をするコストを見込んでいくことは適切ではないと考えています。少なくとも現時点で、実際に公共の用に使用されていないような、そういう旧の改築前の施設は現時点でも大津市で保有しているものがありますので、そういったものに関しては、前回では単純にそれらも更新するような形でコストシミュレーションしておりましたが、今回のシミュレーションにおいては更新費用を見込まず、解体に関する費用のみを計上するといった考え方でなるべく精緻なシミュレーションをしていくことを考えているところです。

インフレのことにも触れていただいたように思うのですが、今後20年後、30年後の物価上昇がどうなるかということに関しては見通せない部分がありますので、シミュレーションの際には、前回改訂時に用いたコスト算定の考え方、第2版の建築物のライフサイクルコストの数字から現在の時点までの、その部分のデフレーター補正は当然必要かとは思いますが、その先々の部分のインフレ対応に関しては見通せない部分がありますので、あくまで現時点での数値でとどめ置くという形にせざるを得ないと考えています。

ただ、今後ますます物価が上昇する可能性はありますので、それを評価しないことによって、シミュレーション自体があまり意味をなさないものになってしまうのではないかと指摘もあるかと思いますが、その点に関しては適宜、5年、10年ごとの見直しを図っていきますので、その際に反映をさせていき、その都度、不足額を点検していくというようなことでアップデートをしていこうと考えているところです。

▼委員

市民の皆さんに数字として説明するためには、いわゆる建替とその長寿命化の中で、どちらが安価ですよといったように比較してデータを出しますが、実際にリノベーションをするときには単純な改修ではないですよということを言いたいと思っていて、改めてニーズに合わせてリノベーションをするときに、やはり新しい機能を取り入れたりするので、おそらく値段が高くなるだろうと。だから現実問題としては実際それをやるときには、そういった様々な問題が出てくるだろうというのがまず1点ですよ。

それで、複合化でやはり面積は減らせますよね。将来的に長寿命化するということでかなり費用がかかるので、それをたとえば2件も3件もやるよりも、何かどこか複合化ということ、表に出さなくても、市の中でこことここをこうすればこれだけ、たとえば会議室が共有できますよとか、人件費が削減できますよとかですね、何かそういったことを検討していくことが必要ではないでしょうか。

▼委員

スマートシュリンクという言い方の中に含まれると思いますが、施設を3つから2つにする多機能化する、その機能を上手に整理することによって、より機能性の高い、市民サービスが向上するような形で縮小していくことがあるということまで踏まえた上で、シミュレーションしたほうがいいですよというお話ですね。

▼委員

おっしゃる通りです。だから単純にすべての施設を、必要な施設は長寿命化していきますよと、それに走っていきますと、あまり良くないかなというのはあります。

▼委員

たとえば先ほどの火葬場の話でも、広域連携した方が全体を減らせるよねという話があると思うので、京都市と大津市、草津市でバラバラに更新することはない。

それからもう1つ、最後重要なご指摘、ベンチマークというか目標管理のことなのですがこれはどうですか。

▼事務局

一般的には、ベンチマークをもって進捗管理をしていくというところが常ですので、そういった具体的な目標のない計画で良いのかというところのご指摘であったとは思いますが、これは、前回改訂時にもあった議論であったと考えているところではありますが、もともと前回改訂前の総合管理計画、その前身となるマネジメント基本方針では、今で言う不足額を出した上で、それをどう削減していくかというところの解決策として、一律30%のコスト削減、15%は経費削減で、15%は面積削減でやりましょうというようなことを機械的に掲げたわけではありますが、不足額そのもの自体ですが、これは将来コストをどの試算期間で見るといったところで変わってくる部分もありますし、それに対する本市として投じることのできる投資額についても、その算定期間による投資額に基づいて出しますので、この不足額自体がかなり流動的なものになると、そういう理解をしているところです。ですので、時々に応じて変わってくる不足額そのものに対して、削減目標という形でお示しをするのがふさわしいのかというところが、前回改訂時の議論にもあったと理解しておりまして、そういった観点からも機械的に削減目標を示して、それを具体的にどうしていくのかという議論とセットではないような、概念としての削減数値を掲げることの難しさを感じます。この間本市では、委員長もおっしゃいましたが、なかなかうまくいかなかった部分というのもありまして、その点を踏まえて現在の内容になっていると、そういう理解をしていますので、削減目標という形でのベンチマークはふさわしくないのではという考えは引き続き持っているところではあります。

一方で、ベンチマークもないまま何のためにこの計画を進めるのかというところはお指摘のとおりではありますので、今回、一部でしかお示しはできておりませんが、施設の保有量、また、今後の更新費用や維持管理費用がどれだけかかってくるのか、そういった不足額も含めたデータ類は今後もアップデートしながら継続して算出していくことになります。

また、そのアップデートの都度、状況がどのように変わっているのかというところを点検することによって、本市の公共施設マネジメントの進捗を確認しながら、今回は取組方針をどうしていくのか、10年ごとにマネジメント方針をどうしていくのかというところに反映させていくことによって改善につなげていくという形で進めさせていただければと考えています。

▼委員

先の委員会でもお話したと思うのですが、施設の床面積を減らすというのはもちろん必要だと思うのですが、要するにコストを減らすというのはとても大事なかなと思っていて、13ページの、たとえば公共施設包括管理業務ありますよね。包括管理をすることによって、従前と比べてどれだけコストが減ったのかと、あとは大津港湖岸なぎさ公園ですね、Park-PFIでたねやに貸していると思うのですが、賃料がどれだけ入ってくるとか、要するにコストがどれだけ下がったかというところをベンチマークとしてもいいかなあと思っていて、その部分を大津市さんとしては強調されたらどうかという気はしたのです。

▼委員

1点、教えていただきたいのは、こういう公共施設の管理計画、改訂方針に国や他の行政機関、そういったところをある程度参考にしながら、方針を決めていかれるというのは大変よく分かります。ただ、一方で特にハコモノの維持管理がまさしく問題として出てきているのですが、これらについて個別の施設名が出てきますと、やはりその地域ごとの住民の方についてはそのようなハコモノについて、いわゆる既得権的な観点もあるのです。

各施設につきまして、今後どのような形に持っていくかということは、ある意味、住民意識がこれだけ多様化してきている中であって、民意をどのような形で反映していくのかとかということ、この辺りはどの段階で入ってくるのかなど。今回の熊本地震であっても、暑い中で体育館を避難所にされています。大津市で発災した折には、今現在、中学校の体育館、小学校の体育館が避難所にたくさん指定されています。これらはどの程度優先順位として考えられるのか、他の施設につきましても、民意との関係をどのような形で今後図っていくのかということについて、教えていただけたら嬉しいです。

▼事務局

委員のご指摘、前回の11月の会議の際にも防災機能の向上に関する市民ニーズのことについてお触れをいただいたように記憶をしています。

その民意を、この公共施設のマネジメントにどういうふうに反映するのかというところに関しては、非常に重要な視点と考えています。当然、個々の施設に関しては、やはり地元の施設という思い入れがありますので、人口減少社会を迎えて、これからの公共施設の維持をどうしていくのかという検討に当たって、総論としては全てを維持していくのは難しいというところではご理解をいただけたところではあるのですが、個々の施設のこととなると、従前のサービスを維持してほしいというご意見があるのはごもっともだと思いますので、そういったところを進めていくにあたっては、じっくりと時間をかけて、施設の状況、市民ニーズの変化等を、丁寧にご説明させていただくというところがポイントになると考えています。

今回の改訂についてご議論いただいている総合管理計画そのものに関しては、その個別の施設をどうするというミクロの部分をご議論いただき、その計画の中に書き込んでいくという作業をするわけではございません。

大津市の公共施設全体の状況が今どうなっているのか、それが今後、維持更新にどのようなコストがかかるのか、それを維持していくためにはどれだけの費用が不足するのかというところを明らかにした上で、これを行政だけではなく、市民の皆様とも情報をしっかりと共有をして、市民の皆様一人一人にとって、自分事として受けとめていただき、本市としての全体の公共施設をどうしていくべきなのかというところを考えていただく、機運を醸成するツールの1つとしてでもあるというふうに理解をしているところです。多くの市民の皆様と共有をしながら、一緒に考えていくことが重要になると考えております。

▼委員

概ね理解はするのですが、要するに、市としての総合指針的なものと、個別の集合体が総合的なものになるのか、その辺りいつの段階で、たとえば総合指針が出ました、総合的な方法でいきますということであれば、個別の話については後でついてくるような状態、追従するような形になりますから、その部分は、個々具体的にその総合性と整合を図りながら進めるという考え方、それが民意を反映する場と考えたらよろしいですか。

▼事務局

それぞれの施設ごとに個別施設計画、長寿命化計画というものを策定させていただいているとこ

ろです。

今ご議論いただいている総合管理計画の相互の関係性をどう考えるかというところも、実は悩むところではあるのですが、当然それぞれがバラバラに違う方向を向いているということはあり得ない話ですので、総合管理計画があって個別施設計画がある、逆に個別施設計画があって総合管理計画の方に反映していくというような逆方向のどちらかのような一方方向の考え方ではなく、それぞれをお互いに相関させながら、整合性をとりながら計画を定めて、それに基づいて取り組んでいくという、そういう形になるのではというところを考えています。

▼委員

ということは、ケースバイケースで、その都度あたっていくという考え方ですね。

これに固執をしているわけではなく、そのような民意が、どの段階で入ってくるのかということが少し気になっていましたから、確認させてもらいました。

▼委員

今後の財政状況を踏まえると、すべての施設を維持していくことは困難であると理解しています。しかしながら、削減という側面が強調されます。その中でも、統合化などいろいろな策を講じて新たな公共施設の価値を創造していくという方向性も見せていくことで、住民の方に納得いただけるような計画になろうかと思います。

また、想定外の自然災害が生じていることを鑑みると、令和4年に作られた管理計画のときから、さらに公共施設の災害時における拠点、機能の重要性は高まっていると実感しています。それを新たな管理計画にどう入れるかは検討を要しますが、1つの論点としては重要なポイントだと思います。

もう1つ、新たな国の追記事項として脱炭素化（GX）が盛り込まれていることを考えると、具体的な施設として環境施設のあり方が大きく関わってくるのかと思います。人口減少に伴って、ごみ排出量が減ってきていることは環境面で一見好ましく思われますが、処理施設においては連続稼働による発電効率の維持が重要であり、単に排出量が減ることが必ずしも環境配慮上良いとは限らないという知見もあります。財政的な話だけではなく、こうしたGXの観点を考慮した広域化の推進等、管理計画に反映させるべき視点があるのではないかと思います。

加えて、GXの実効性を高めるためには、DXとの連携・統合が不可欠であると考えます。DXによるデータ連携や可視化が進むことで、行動の最適化が図られ、結果としてGXの達成に寄与するというロジックが成り立ちます。このようなGXとDXの相乗効果や相互関係を踏まえることで、本管理計画のあり方もより未来志向で質の高いものへと深まるのではないかと考えます。

▼委員

ごみの減量化はとても大事な話だということが1点と、この間、近隣都市でもごみの減量化に成功していることが1つ、それからおっしゃったように、GXとDXの関係、デジタルトランスフォーメーションがあるからこそグリーン化ということもあってなのですが、実はこの焼却場というのは地域に大変ご迷惑をおかけする施設で、都市計画で更新、新設を提案するときは住民の方との折衝が特に大事な施設でもあります。そのような意味で民意をどのように反映するかということと、地域にご不便をおかけすることにもなりますので、どうするのかということがあるかと思います。

最後に、GXの方でいくとウッドチェンジといって、公共施設の木材利用の促進ということも一方で進めておりまして、寿命の問題もありますが、カーボンニュートラルという考え方から大津市も自然資源に恵まれるところですので、木を使うことも今後考えていくべきことかなと思い、他市でも公共施設の木質化を進めているところです。

▼委員

資料1の4ページの改訂の目的に書かれているところで、公共施設総合管理計画と公共施設白書の統合という大きな方針が示されているのですが、情報を一元化するという方向性では市民にとっても庁内の皆さんにとってもわかりやすくなって良いと思うのですが、この統合によって施設の現状と今後の方針との関係が見えやすくなったら、ということ进行期待しています。

今回、総合管理計画で市全体の基本的な方向性を示して、具体的な点検や修繕については個別施設計画で扱うという整理がされているのですが、役割分担に関しては分かりやすくて良いのですが、今後市民が見たときにも、この総合管理計画から個別施設の取組状況をたどれるような見せ方を検討していただければと、なかなか膨大な資料というのはそれぞれが独立して繋がりが見えづらいという懸念がありますので、その部分で市民側にとって分かりやすいものをご用意いただければと思います。

▼委員

ありがとうございます、それこそA1を使うと分かりやすい資料を作れそうですね。全体計画と個別計画の関連性がわかるような見せ方を提案してもらうなど、そういうところでも市民との対話にA1が使えるような感じがします。

▼委員

意見というよりはお願いなのですが、今回の改訂で単なる計画ではなく実行できる計画にしたいと思うのですが、3つほどポイントがあるのではないかと思います。

1つ目が、これからどれだけ財政負担が増えるかというのを可視化して、市民に分かりやすくしていただきたいです。

2つ目が、考え方として長寿命化といろいろ言っていますが、その根底としては施設を使い切るという発想でやる、というような、コンセプトのようなものを明確にしたいと思います。そして最後に、総合管理計画というどうしても総量縮減的なお話になるのですが、大津市は大変魅力のある市ですので、それをこの計画の中にも織り込んでいただけるとありがたいです。

▼委員

ありがとうございました。3番目のご指摘はその通りで、公共施設のマネジメントというのは大津市の魅力を一層引き出すような、まちづくりに貢献するような考え方がコンセプトとして根底にないといけないというのはまったくその通りです。市民サービスの向上を前提に考えることはしていましたが、まちの魅力を高めることが市民への貢献になり、市民自身にとっても大きな利益になるということを考えさせられる重要なご指摘だったかと思います。